

皆さん、こんにちは。

暑さも少し収まって過ごしやすい季節になってきました。秋と言えば「〇〇の秋」と昔からいろいろ言われていますね。そこで、「読書の秋」というテーマでお話しします。

最近は読書離れが進んで読まない人が増えているとか、読む人の中にはタブレットで漫画や本を読んでいる場合が増えたと言われます。確かに書店で本を購入してとか、図書館で借りて読むのは大変です。でも、私はできるだけ自分の手元に置いておきたいので買うことが多いです。良い点は、自分のペースで読める。読みながら情景を思い浮かべることができます。必要なら、マーカーやメモをすることもできることです。その点、借りた本の場合は汚すことはできません。

本は一度目に読んだときに感じたことや理解したことが、月日が経っていくつかの経験をした後、再度読み直しをしたとき新たな理解や想像をすることがあります。そんなこともあるので手元に置いています。

本はこれからの成長する自分への道標になります。今、こんなことで悩んでいる。自分はこんな人間になりたいけど、どうすればよいか分からぬ。自信の無いことや分からぬことはどんどん本から吸収しましょう。では、どのような本を読んだらいいのでしょうか。それは、自分が一番関心があつたり、求めているテーマからとらえず少しだけ読んで、もっと読みたいなあと思えば買ったり借りたりすれば良いのです。



私は今まで読んだ本や映画の中から出てくる場所に行ってみたり、旅行をしたことがあります。例えば、鹿児島県の知覧や沖縄県の与那国島、北海道の利尻島等です。その場所に行けば、その物語がより深く分かるし、地理的なことや歴史も知ります。その結果、旅の楽しみが広がってきます。

皆さんは自分の生き方をより良くしたいと思いませんか。でもほとんどの人がどうしたらよいか分からぬのです。それなら、今まで生きてきたたくさん経験した人からアドバイスを受ければ良いのです。経験の多い人は自信があって強い信念があり、精神的にも安定しています。そして楽しく人生を過ごしています。その経験を人に伝えたくて本にしているのではないでしょうか。そして、何冊か読むとあることに気づきます。それは、成功している人は共通した考えがあり、同じ内容が多くの本に書かれていると言うことです。つまり、本からヒントを得ていることが分かります。本の後ろに参考文献が書いてあることがあります。つまり、そのことについてもっと深く知りたいと思えば、辿っていくと別の本との出会いがあるのです。

読書する人だけがたどり着ける場所【齋藤孝】



読書によって得られる「深み」が、現実の人生を豊かにし、自己の人間性を深める。インターネットはない、著者との対話のような体験を通して、思考力や幅広い知識、人生の機微を感じ取る力を養うことができ、それが結果として人生の深みと広がり幸福感につながる。自分の今までの体験を何倍にも活かす力になり、世界観が広がり、自分の心がより豊かになると思う。考える力や感じる力、たくさんの知識が得られることで人生の選択肢が増え、幸福感に思えるようになり、プラス思考で物事を考えるようになると思う。私はこの本から視野が広がっていったと思っています。

掃除道【鍵山秀三郎】

カー用品「イエローハット」の創業者で、創業当時は職場環境も悪かったが、掃除を毎日徹底して行うことで社員も協力するようになり、社風が変化し、業界トップに。日本が他の国より綺麗で、掃除を徹底して整理整頓する文化は小学校から高校まで毎日掃除をする習慣があるからだと思う。掃除は自分の精神を集中する効果も高く、穏やかな心や周りの人への配慮もあり、強豪チームは整理整頓が常にできていると思う。

学問のすすめ【福澤諭吉(齋藤孝:訳)】

「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず…」で始まります。人間は生まれた時は同じだが、学問の有無がその後の人生の差を生む。学問は単なる知識の詰め込みではなく、物事を正しく理解し、自分で考え行動する能力を養い、社会を良くしていくことを説いてる。

生涯学び続けることの大切さが将来に繋げる生き方だと思う。常に学ぼうと思う気持ちがその人を成長させると思う。